



「たくさんの方が協力してくれたのも嬉しかった」と細川さん

ひだまりの会は、大洲地区に住んでいる独居老人の方にハガキを書くという活動をしています。きっかけは、自宅の近所に住んでいた高齢者の方が孤独死してしまったこと。大きなショックを受け、私たち高校生に何かできることはないかと考えてハガキを出すことを思いつきました。そこで、賛同してくれた大野綾さん、矢野麻理子さんと3人で校長先生に相談したところ、「プライバシーや資金などの問題もあるが、学校としても協力するのでぜひやってみよう」と応援してください、様々な問題をクリアして実現したのです。ハガキを書く生徒を募ったところ、100人の仲

ハガキがつなぐ心と心

大洲高校 ひだまりの会 細川裕子^{ゆうこ}さん



右から大野綾さん、細川裕子さん、矢野麻理子さん

間が手をあげてくれて、1600人の方にハガキを出すことができました。お返事をくださった方も多く、中には文通に発展したケースもあります。予想以上の反響でした。後輩たちにこの活動を受け継いでもらい、私自身、卒業してもこの会の活動に関わっていきたいと思っています。



手前の「大洲だいふく」も大農ブランド商品。三好さんの先輩たちが芋大福と梨大福を開発。三好さんが菜の花大福と椎茸大福を作った。また可愛いパッケージや手提げ袋も生徒たちがデザインした。大福、うどんともにJAたいきの産直市「愛たい菜」などで販売

INTERVIEW ふるさと大洲への ラブレター

私たち大洲農業高校食品化学科では、総合実習や課題研究で様々なオリジナル食品の開発を行ってきました。開発は生徒がグループになって行いますが、大洲の農産物を活かすことを大きなテーマとし、企業や団体の依頼を受けて行うケースもあります。私たちが開発した椎茸うどんや椎茸大福は、大洲市森林組合さんの「大洲特産の椎茸を使った食品を」という依頼から誕生したものです。実は既に先輩たちが椎茸入りの「ミラクルクッキー」を生み出しており、その続編といったところです。私はうどんを担当しましたが、乾燥椎茸を粉碎してうどん粉に混ぜて製麺する...というイメージはできていたものの、実際に試作してみると椎茸の粒が大きくて麺が千切れたり、匂いが鼻についたりとなかなか思うような商品

大洲の特産品を自慢したい

大洲農業高校 食品化学科 三好茉莉^{まり}さん



に仕上がりませんでした。試作と試食を繰り返したおかげで、しばらくは椎茸を見るのも嫌になっちゃいました。でも、それだけ苦労したおかげで、できあがった商品には満足しています。土・日曜日には、自分たちがJAの産直市で販売していますが、地元の方に「美味しかった」と言ってもらえるのが何よりの喜び。そして、今まで以上に故郷・大洲の名物への理解が深まったのも大きな収穫です。

平成11年、長浜地区の住民が自宅や店先で魚を飼育し、それを地域の名物にしようというところで始まった「長浜まちなみ水族館」。私たちは長浜高校もそれに参加し、現在は23の水槽で波打ち際の生き物、長浜の海の魚、西海や沖縄の海の魚などを飼育・展示しています。部員は日々水槽の管理や清掃、餌やりを行い、生態の研究に取り組んでいるほか、毎月第3土曜日には「長高水族館」として一般に公開しています。多い時には1日200名の方が来館して下さり、説明や案内をする僕たちもやりがいを感じます。また長浜地区の各所に水槽を持っていく出張水族館も

大洲の自然を広くアピール

長浜高校 自然科学部 大野雅一郎^{まさいちろう}さん



好評です。この「長高水族館」の取り組みは、故郷・大洲の海洋資源や自然の大切さを改めて意識させてくれました。また仲間とともに命を育てることで、コミュニケーションも深まっていくように感じます。今後はもっと多くの人に知って頂けるようPRにも力を入れたいですね。



老若男女、様々な来館者とのふれあいにより生徒たちのコミュニケーション力も格段にアップ。授業ではできない勉強ができています